

農作物病害虫発生現況情報（8月） 水稻編

1 いもち病

(1) 葉いもち

8月上旬の巡回調査（全県：176圃場）では、発生圃場率は7.4%（平年5.2%）で平年並、上位3葉における発生圃場率は11.6%（平年8.0%）で、平年より高かった（図1、2）。

(2) 穂いもち

8月下旬の巡回調査（74圃場、沿岸部除く）では、発生圃場率は5.4%（平年6.1%）で平年並であった（図3）。

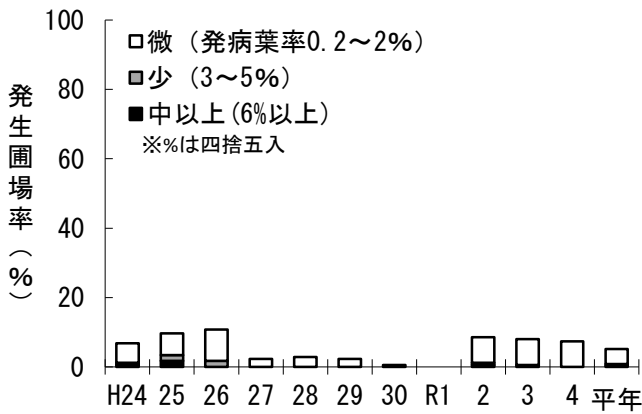


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（8月上旬）

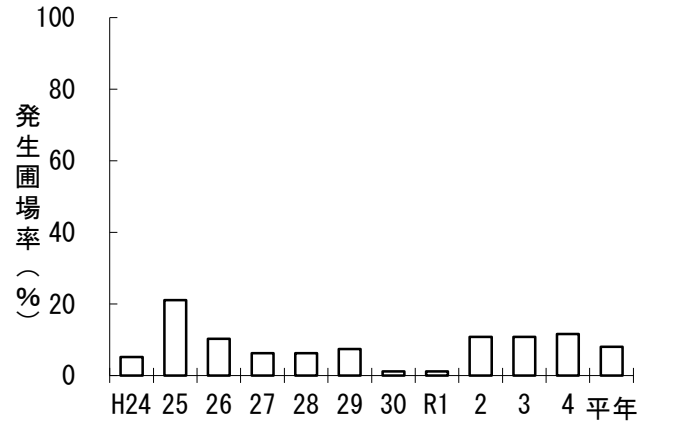


図2 上位3葉における葉いもち発生圃場率（8月上旬）

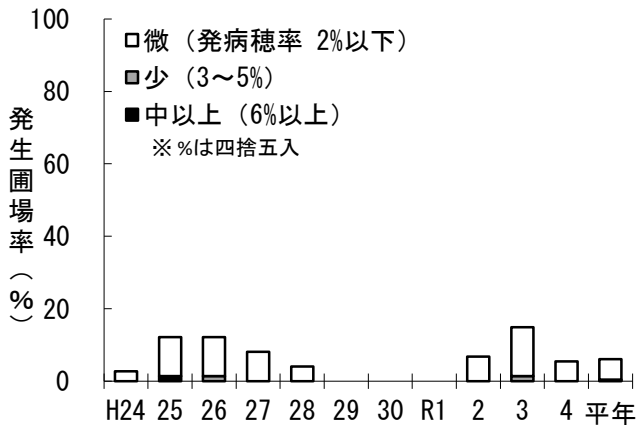


図3 穂いもち発生圃場率の年次推移（8月下旬）

2 紋枯病

(1) 8月上旬の巡回調査では、発生圃場率は9.7%（平年17.2%）で平年よりやや低かった（図4）。

(2) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は43.2%（平年39.3%）で平年並であった（図5）。

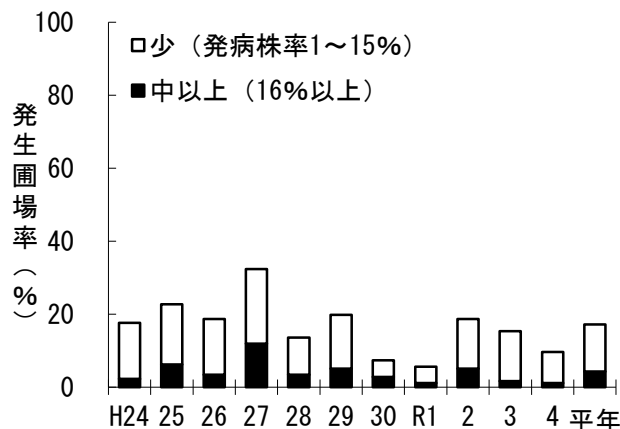


図4 紋枯病発生圃場率の年次推移（8月上旬）

※ 病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

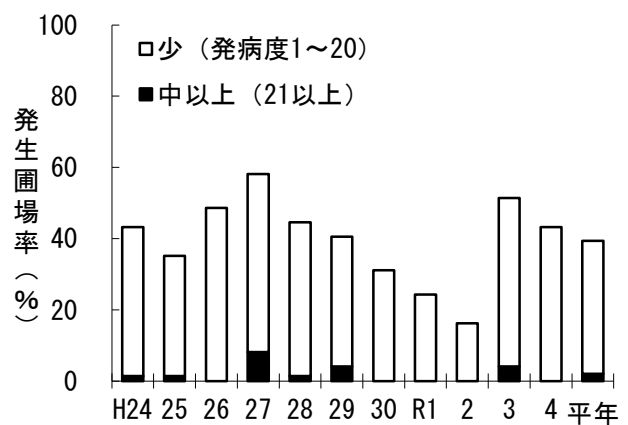


図5 紋枯病発生圃場率の年次推移（8月下旬）

※ 病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

3 稲こうじ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は12.2%（平年4.9%）で平年より高かった（図6）。

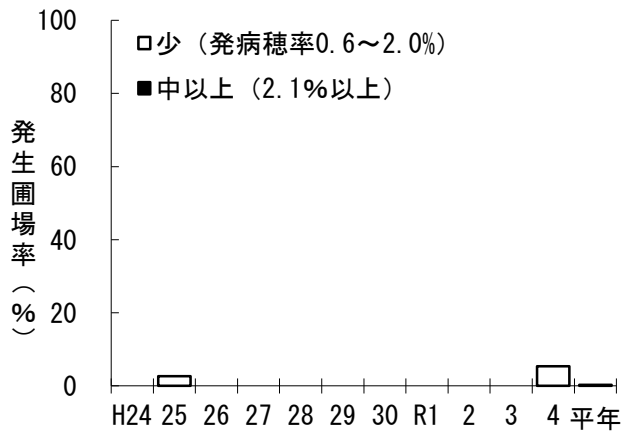


図6 稲こうじ病発生圃場率の年次推移(8月下旬)

4 その他病害

(1) 8月下旬の巡回調査では、葉鞘褐変病の穂における発生は確認されなかった。

5 斑点米カメムシ類

(1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、8月第4半旬にアカスジカシカメ成虫の発生ピークが見られた（図7）。

(2) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率45.5%（平年40.0%）、圃場あたり虫数2.1頭（平年2.7頭）といずれも平年並だったが、程度が高い圃場は26.1%（平年20.5%）と平年よりやや高かった（図8左）。

(3) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率28.4%（平年35.1%）、圃場あたり虫数1.9頭（平年2.3頭）といずれも平年並だった（図8右）。

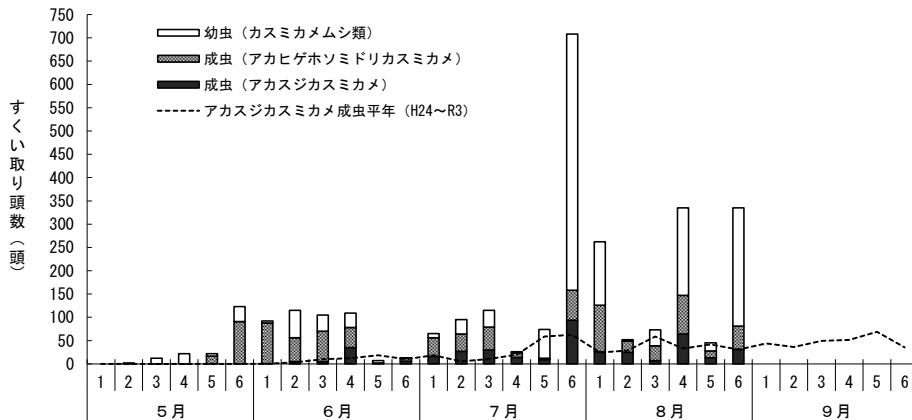


図7 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカシカメムシ類の発生推移（すくい取り 往復20回振）

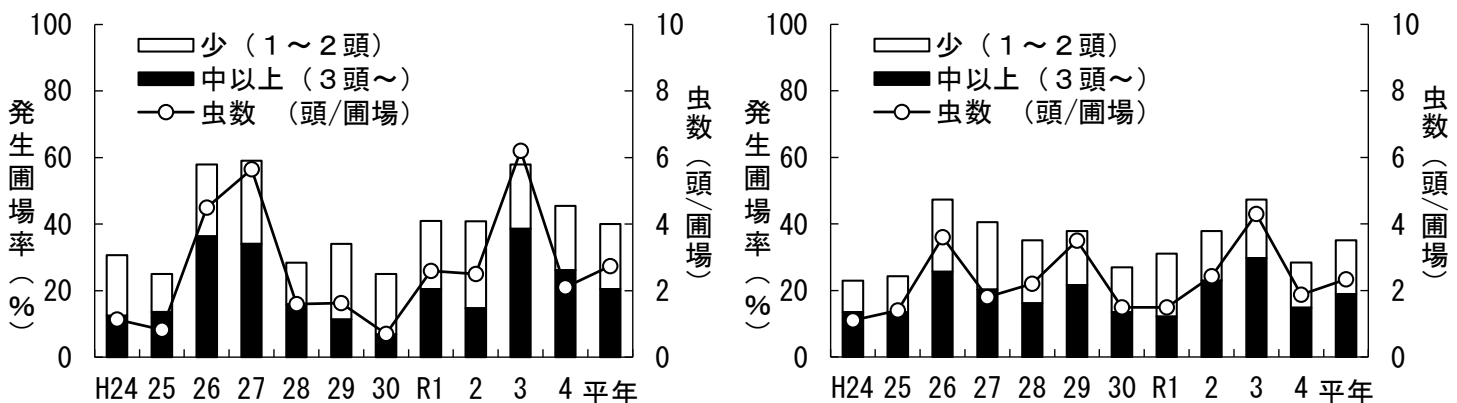


図8 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移
（左：8月上旬、右：8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振）

6 ウンカ類

(1) セジロウンカ

8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は66.2%（平年30.3%）で平年より高かったが、発生程度少以上の圃場は見られなかった（図9左）。

(2) ヒメトビウンカ

8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は74.3%（平年63.7%）で平年よりやや高かったが、発生程度少以上の圃場は見られなかった（図9右）。

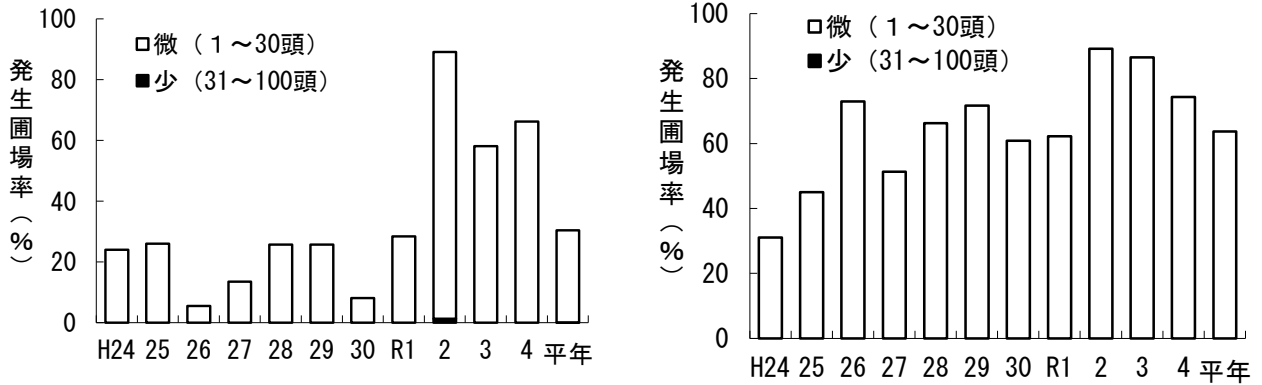


図9 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

(左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振)

7 イナゴ類

(1) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は20.3%（平年53.1%）で平年より低かった（図10）。

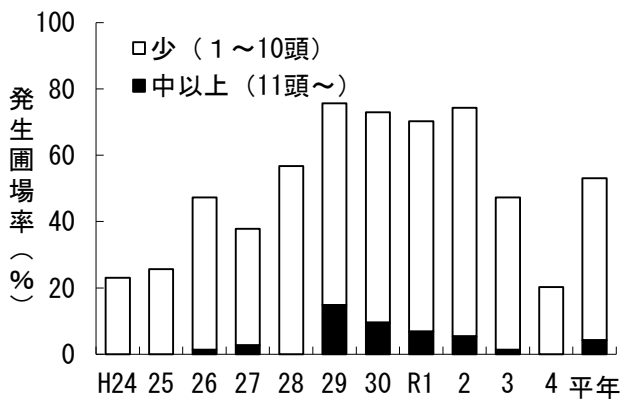


図10 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移

(8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振)

8 ツマグロヨコバイ

(1) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生は確認されなかった。